

蕨市立病院の移転建替え方針案について

蕨市立病院の移転建替え方針案について

蕨市立病院の建替え整備は、移転建替えとし、移転候補地は西公民館・松原会館を含む一体的な敷地とする

蕨市立病院の整備に関する取り組みについて

➡ 蕨市立病院の大きな課題

- ・ 耐震化（旧建築基準法で建てられたため現行の耐震基準には未対応）
- ・ 老朽化（電気や排水設備など大規模な整備が必要となってきた）



既存施設の耐震化は補強量が多く、全面改修となることに加え、コスト面や運営面での影響、更に、整備約10年後には建替えを要することなどから、既存施設の耐震化は難しいと判断し、令和5年1月、蕨市市立病院の耐震化は建替えとすることを決定

考えられる
建替え方法
は？



現地での建替え

- ・ 段階的な建替え
- ・ 一体的な建替え

移転での建替え

- ・ 民有地の取得
- ・ 既存公共施設の敷地の活用

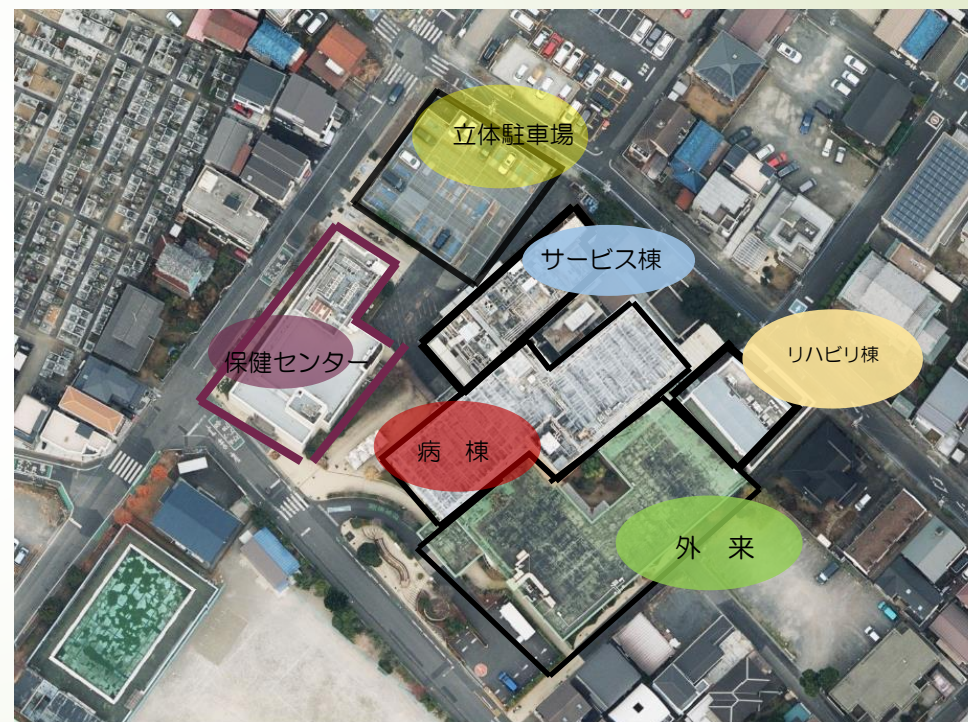
どのような
病院にする？



現行機能を維持することを基本
とする（蕨市立病院将来構想）

現地建替えでの課題・問題点

- ✓ 現敷地に建替えを行えるスペースがない
- ✓ 工事期間の長期化
- ✓ 工事費用の増大
- ✓ 診療の縮小や停止による地域医療への影響
- ✓ 病院経営の悪化及び市財政支援の増加
- ✓ 医療提供体制の低下



移転建替えでの課題・問題点

- ✓ 市内に病院の敷地と同等規模の未利用の敷地がない
- ✓ 民間による土地の売買の情報はつかみにくい
- ✓ 既存公共施設の敷地の活用には代替地が必要

5645.51㎡

現地と移転建替えの比較

項目	現地 段階的	現地 一体的	移転
工期	×	△	○
建設費(R3.3現在)	67億	69億	61億
経営への影響額	18億～33億円	15億円	0円
トータルコスト	85億～100億	84億	61億
職員体制への影響	あり 人員削減小	あり 人員削減大	なし
医療提供	外来・入院縮小 救急縮小	外来・救急縮小 入院停止	なし

移転建替えが最も望ましい
建替え方法である

- ✓ 病院を通常運営をしながら、建替えが可能
- ✓ 工事期間が最短
- ✓ 工事に伴う病院収益の減少がない
- ✓ 財政への影響が最も抑えられる

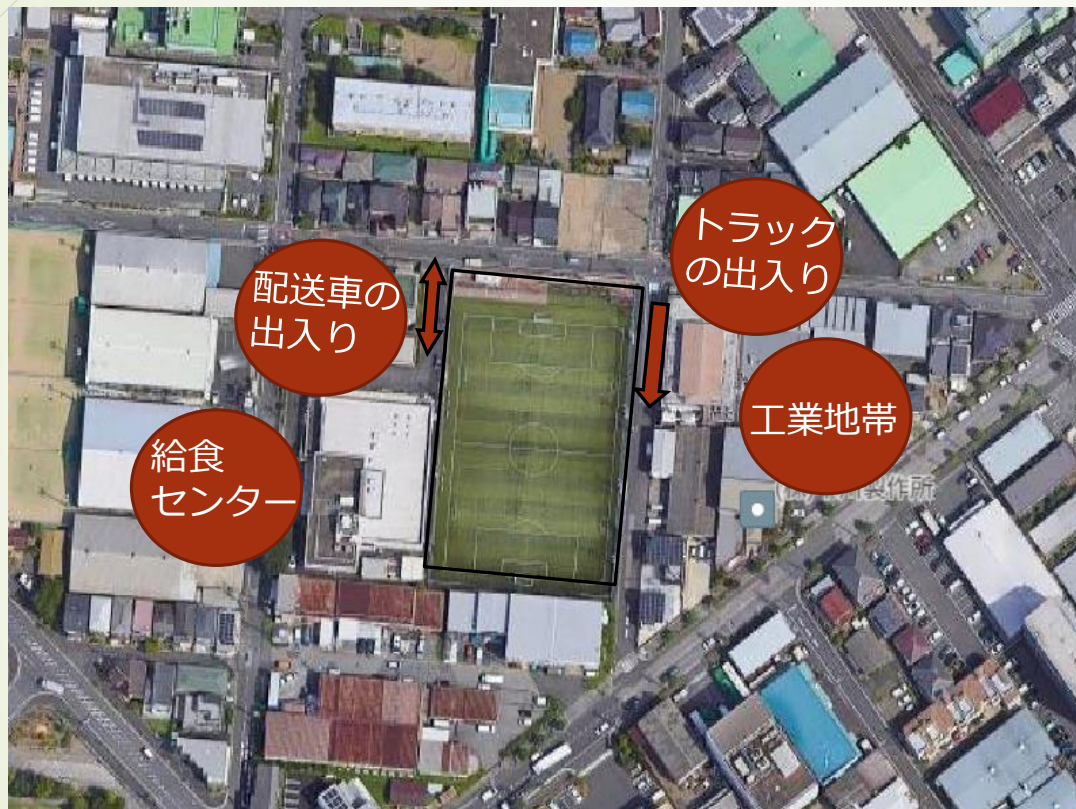
移転建替えには、既存公共施設の敷地の活用が現実的である

✓ 課題

病院移転の可能性がある敷地の確保
病院移転に伴う公共施設の代替地の確保

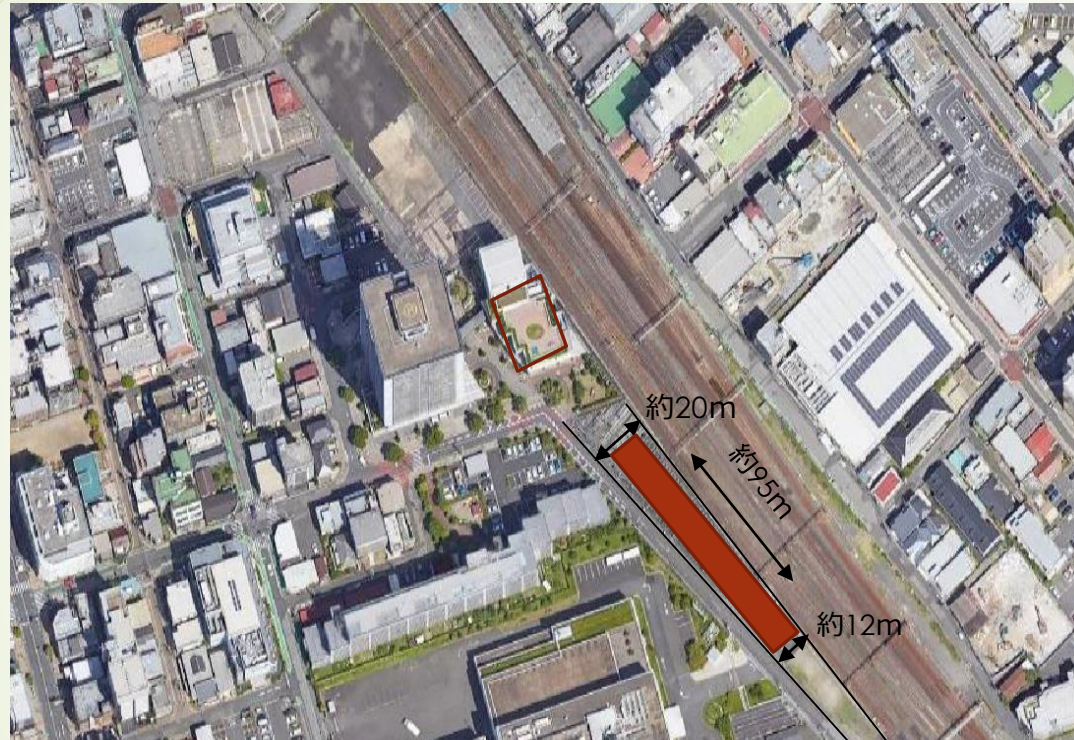


3案で 検証	錦町スポーツ広場	駅西口再開発跡地	西公民館・松原 会館を含む敷地
敷地面積	4685.84m ²	2214.38m ²	4540.22m ²
容積率	200%	400%	200%



錦町スポーツ広場
4685.84m²

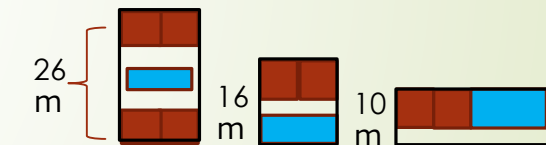
- ✓ 病院を移転させられる可能性がある
- ✓ スポーツ広場の代替地の確保が難しい
- ✓ 最低でも4年間は個人・団体のスポーツ活動ができない
- ✓ 接道が2方向でトラック等の出入りも多く安全面が危惧される



蕨駅西口再開発跡地
2214.38m²

- ✓ 容積率で見ると延床面積は確保できるものの、敷地面積が狭く、十分な医療提供エリアを確保できない

病棟配置パターン ■ 病室 ■ 設備 □ 廊下



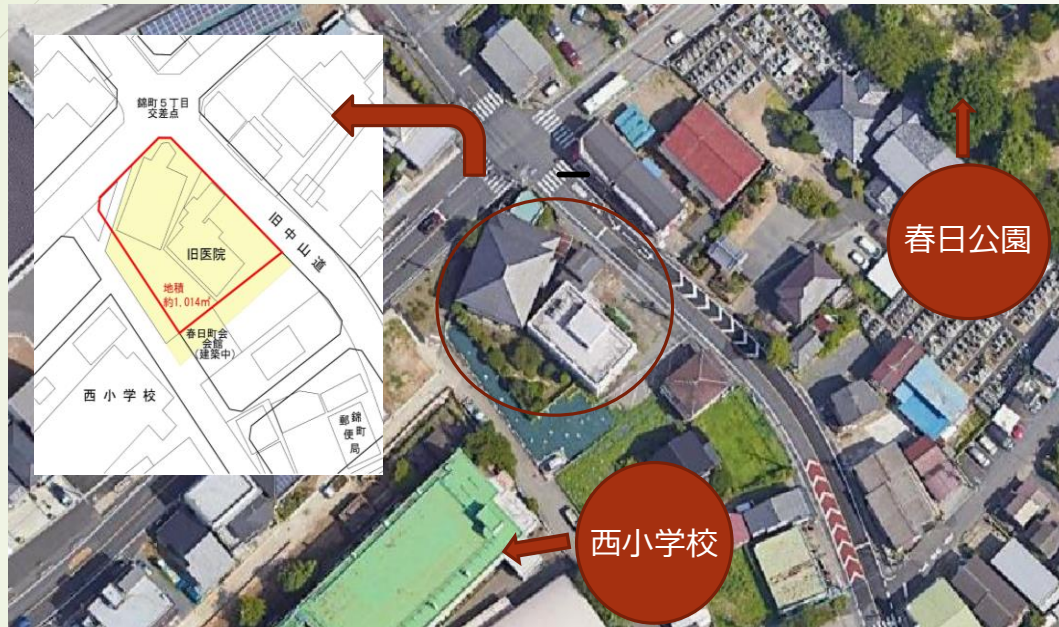
病室と機能が一列となるパターンで見ると
4人部屋5室程度しか確保できない

- ✓ 接道が1方向のため、外来入口、夜間救急入口、診療材料品の搬入口、お見送りの出口、感染ごみ等の搬出口が集中する



西公民館・松原会館等
4540.22m²

- ✓ 病院を移転させられる可能性がある
- ✓ 接道が4方向あり、立地環境は適している
- ✓ 西公民館及び松原会館の移転先が確保可能



寄贈された敷地について
1014㎡

✓ 西公民館・松原会館の複合
で移転建設は可能

事務所やトイレ、ロビーなどを
共用することで、現施設の諸室
の確保が可能。

(参考)

西公民館 (延床面積1069.29㎡)

松原会館 (延床面積578.78㎡)

※課題/松原会館の運営母体となる社会福祉協議会との協議が必要

蕨市立病院建替え方法検討一覧

評価項目	現地建替え		移転建替え（C案）		
	段階的な建替え（A案）	一体的な建替え（B案） （外来機能を別敷地に移転）			
工事期間（工事着工～完成まで）	80ヵ月（6年8ヵ月）	36ヵ月（3年0ヵ月）	22ヵ月（1年10ヵ月）		
総事業費 ※R3年3月時点での試算 （工事費ほか医療機器費等を含む）	約67億円	約69億円	約61億円		
診療への影響	外来の縮小・入院は維持	外来の縮小・入院の休止	なし		
建替えに伴う病院収支への影響額	約18億円減	約15.4億円減	0		
収益への影響額	約35億円減	約43億円減	0		
支出への影響額	約17億円減	約27.6億円減	0		
総事業費と病院収支影響額の合計額	約85億円	約84.4億円	約61億円		
評価	整備方法として難しい	整備方法として難しい	整備方法として望ましい		
主な理由	建替えにおける影響額が非常に大きい。工期の長期化は、騒音等、近隣への影響も大きい。また、入院は維持を基本としているが、工事の影響で入院の休止もせざるを得ない可能性はある。また、難易度の高い工事であることが予測され、工期延長や工事費の増大も考えられる。そうした工事の状況によって、医療収益の減少も考えられる。更に、段階的な施設整備のため、必要な医療機能がうまく配置できないといったことも起こりうる。工期が長いことから、その間、現施設の老朽化対策も必要となる可能性がある。	建替えにおける影響額が非常に大きい。工期は段階的な建替えに比べ短くなるが、その分、工事期間中に入院を休止せざるを得ない。このことにより、病院収益は短期間に大幅な減少が発生する。また入院の休止により看護師等の人数の適正化が必要となる。人数の適正化の影響で建替え後は、看護師不足に陥り、おもしろような医療活動ができなくなる可能性がある。	現地建替えの2案と比べ、工期は短く、また、建替え工事に伴う病院経営への影響もなく、建替え方法としては一番望ましい方法である。しかしながら、市内に病院と同等規模の未利用の敷地はなく、移転のための敷地の確保が大きな課題である。		
既存公共施設の敷地の活用	—	—	錦町スポーツ広場	西公民館・松原会館を含む一体的な敷地	駅西口再開発跡地
席地面積・容積率			4685.84㎡・200%	4540.22㎡・200%	2214.38㎡・400%
評価	—	—	△	○	×
主な理由	—	—	敷地面積から病院の建設は可能であると考えられるが、錦町スポーツ広場の移転先が課題である。また、都市計画の変更が必要である。	敷地面積から病院の建設は可能であり、立地環境も良好である。また、西公民館・松原会館は移転し、寄附をいただいた土地を活用することで複合施設の整備が可能である。都市計画等の見直しが必要である。	病院建設のための一定の延床面積は確保できるが、敷地面積が狭いことから、外来や入院機能を適正に配置することができないため、病院建設には適さない。